

# ひきこもりの居場所実態調査 調査結果の概要について

三重県子ども・福祉部地域福祉課

## ▶ 調査の目的と概要

### 目的

県内のひきこもり居場所の運営実態を把握し、今後の居場所づくりの取組を検討する基礎資料とする。

### 対象

県内ひきこもり当事者のための居場所42か所を対象とし、38か所から回答

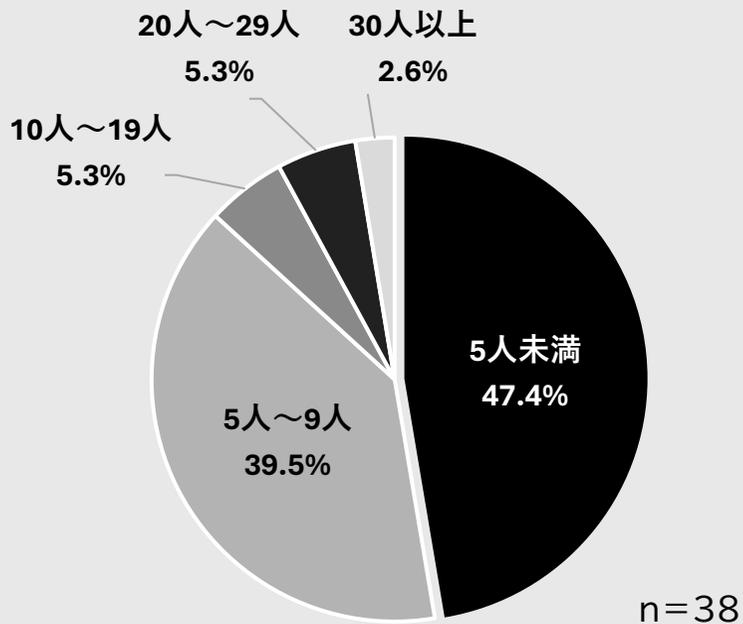
### 期間

令和7年6月2日～6月18日(アンケート調査)

# 居場所の運営状況

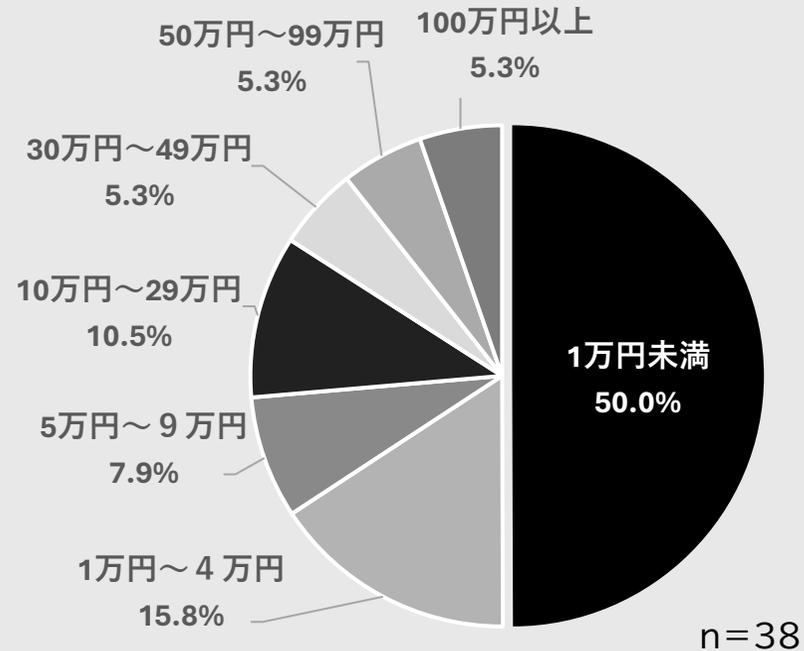
## 1回あたりの参加者数

「5人未満」が約半数(47.4%)  
を占め、小規模運営が中心



## 運営費用(月額)

「1万円未満」が半数(50%)  
限られた資金で運営している



# 居場所の運営状況

## スタッフの状況

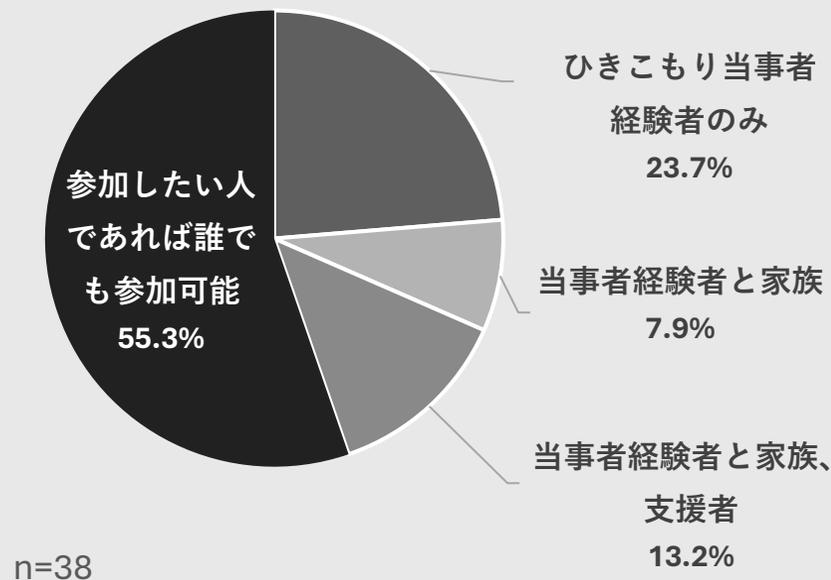
多くの居場所が数名程度の有償スタッフで運営されており、無償スタッフやピアスタッフは0人~1人が7割以上

	0人	1人	2人~3人	4人~5人	6人~9人	10人以上
有償	2.6%	18.4%	31.6%	28.9%	10.5%	7.9%
無償	<b><u>50.0%</u></b>	<b><u>28.9%</u></b>	5.3%	7.9%	2.6%	5.3%
ピア	<b><u>68.4%</u></b>	<b><u>15.8%</u></b>	13.2%	2.6%	0.0%	0.0%

# 居場所の活動

## 参加者の属性

「参加したい人であれば誰でも参加可能」が過半数



## 年齢や居住地の制限

年齢や居住地の「制限なし」が7割以上



## 居場所の活動

### 重要視していること(複数回答可)

97.4%が「安心して参加できる居心地」を重要視しており、利用者の心理的安全性を優先する傾向

安心して参加できる居心地の良さ (雰囲気づくり)	97.4%
参加者の意思を尊重すること (強要しない、急かさない)	78.9%
自由に発言できる場(言いつぱなし 聞きっぱなしの場)であること	60.5%
スタッフも参加者と同じ立場・ 目線であること	55.3%
参加しやすい場所で開催すること	52.6%

(上位5項目抜粋)

### 具体的な活動内容(複数回答可)

約7割がゲームや対話を行っており、共通の活動を介して自然な交流を促す活動に取り組んでいる

ゲーム(eスポーツ含む)	68.4%
対話	65.8%
相談	47.4%
お茶会	47.4%
工作・ものづくり	42.1%

(上位5項目抜粋)

# 居場所が抱える課題

## 居場所を継続する上で感じている課題

(n=38 複数回答可)



## ▶ 調査結果

### 居場所の 概要

県内の居場所は、小規模な運営基盤(財源・人材)ながら、参加者に寄り添い、安心してつながれる場となるよう運営している

### 抱える課題

「周知不足」と「担い手不足」が大きな課題